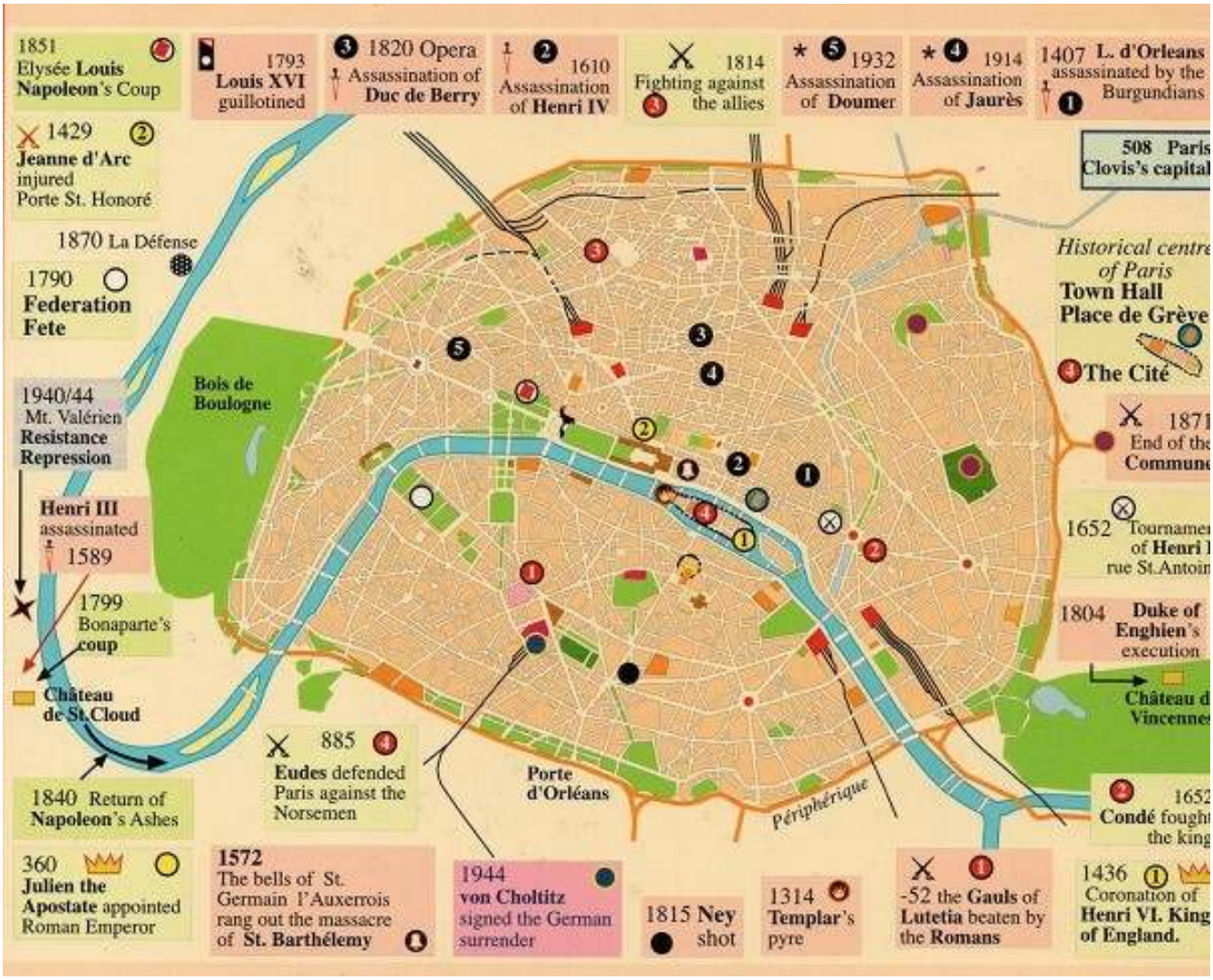
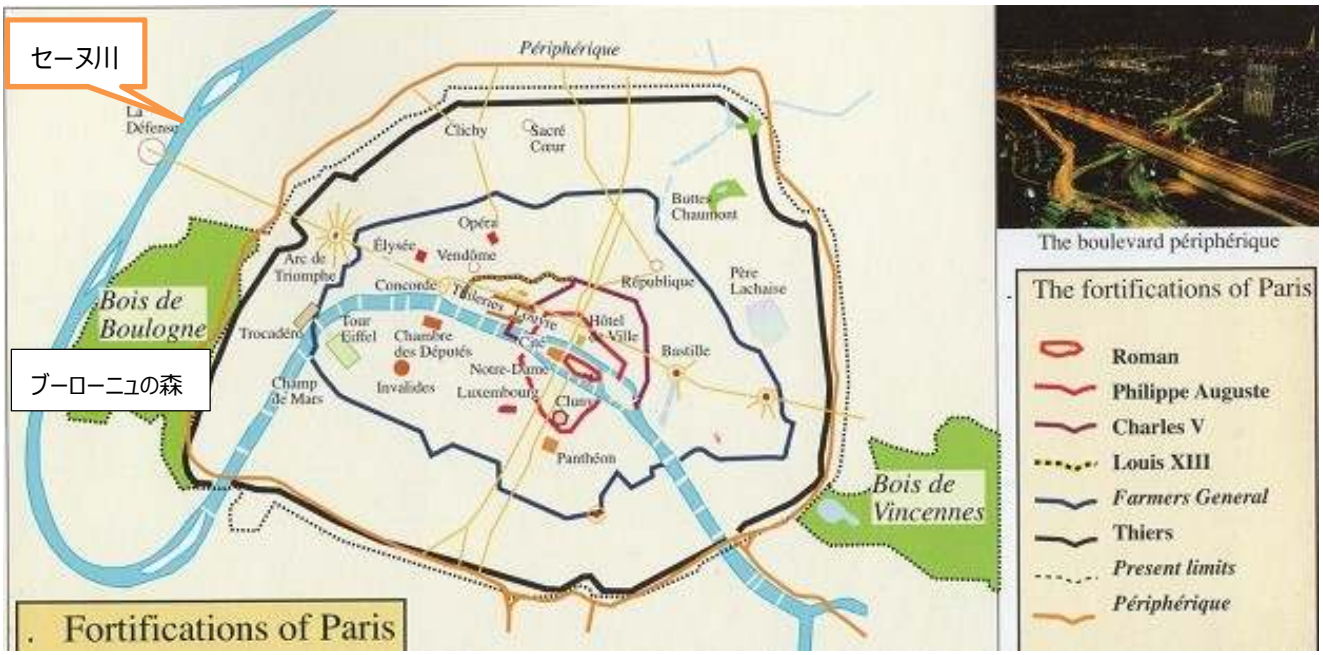
ガロ・ローマン時代のパリ

37 回　竹本　修文

参考地図１．　パリ 2000 年の歴史地図　どこで、いつ、何が起きたか？



参考地図２．　城郭都市パリの市壁の変遷　ローマ時代から近代まで



出典：The chronologies of Maurice Griffe ,Paris 20 Centuries of History ,06110 LE CANNT, France

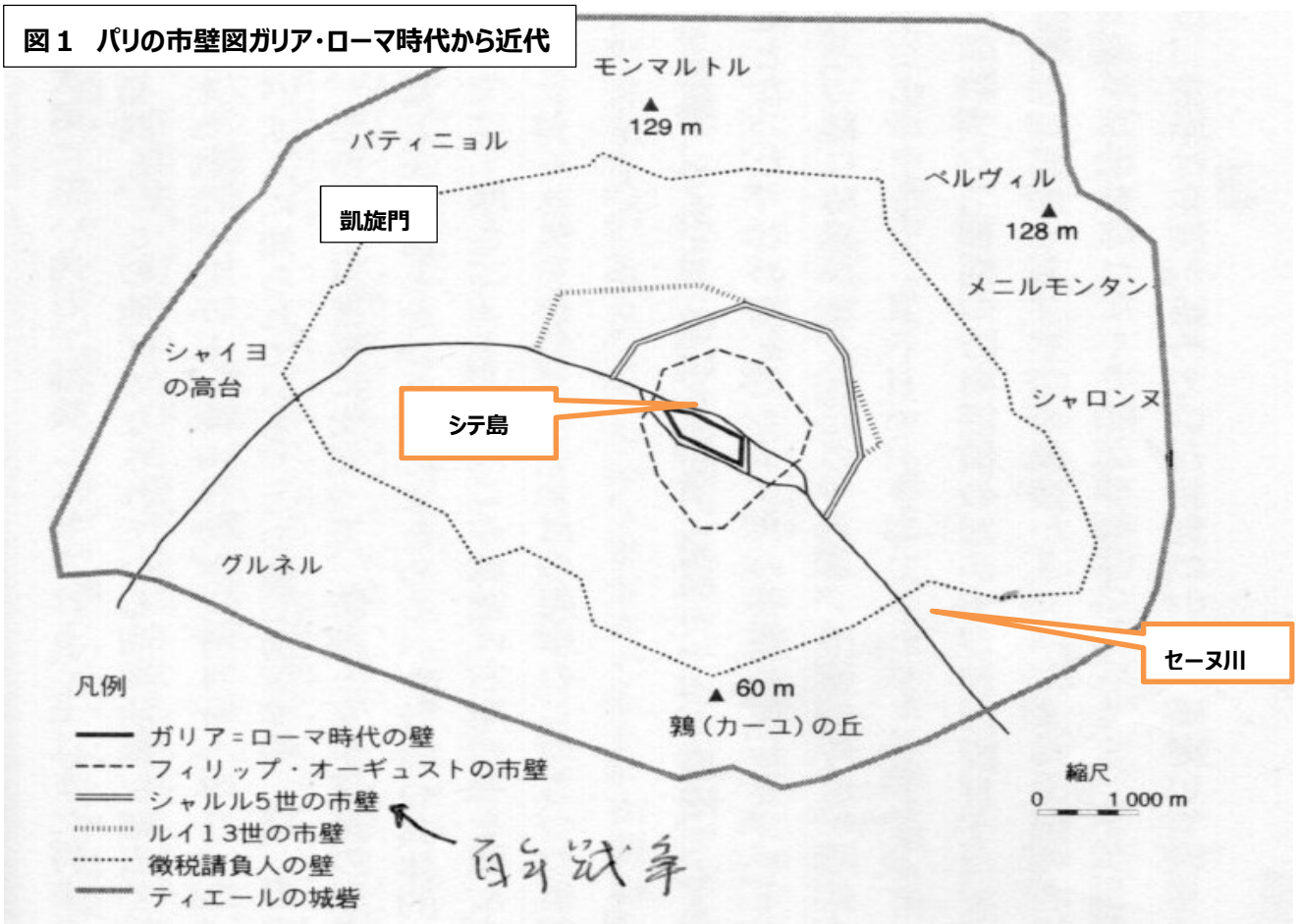
1. はじめに

① 19 年 9 月は 7 年ぶりにイギリスを約 1 か月旅行し、「最後のイギリス旅行その 1 ～ 5 」の 5 本を投稿した。それらを書きながら、イギリスよりはフランスに多く行ったので、20 年には最後の長期フランス旅行をして、KPC にシリーズで投稿しよう」と、秘かに考えていたが、旅行そのものが不可能になり、77 才の今では数年先にコロナが終息する、と言われても個人旅行はむりかな～？　08 年のフランス旅行が 35 回目で最後になる可能性が確実になりそうである。

② 21 年になり、テレビで**五稜郭**の番組を見ていて、30 回生の**西内一氏**から数年前に頂いた「**福沢諭吉の築城書訳から**」の別刷（涼川会文集 12 年）を思い出して、日本の西洋式星形城郭の歴史をもう一度読んだ。すると、「05 年にフランス・ブルゴーニュ地方を旅行した時に、アヴァロン Avallon という町に泊まり、夕食後に小さな公園を散歩していたら、17 世紀の軍人で築城技術者である**ヴォーバン** Vauban の銅像を見つけ、傍に立って写真を撮った事を思い出し、城郭都市ロンドンに続いて城郭都市パリを纏めてみよう、と言う気になった。ヴォーバンは太陽王ルイ 14 世が北方周辺国に侵攻し領土を拡大した時代の軍事技術者で、建設した要塞のうち 12 箇所が、ヴォーバンの防衛施設群として、世界遺産に登録されたが、ベルギーやアルザス方面が中心だったので、パリには世界遺産の要塞はない。

③ パリは紀元前に古代のガリア系部族の**パリシー人**がセーヌ川の小島・**シテ島**に防塁を作って定住して始まった。そして、時代と共に発展し、その市壁は**参考地図 2** 及び「**図 1**　パリの市壁図　ガリア・ローマ時代から近代」に示した通りである。「**図 2**．パリの地勢図」と合わせて参照ください。 シテ島からセーヌ川の北側（右岸）の**モンマルトル**までは低地で洪水の度に水害にあう湿地であった。共和政末期にローマ軍に征服されるまでは、ガリア系部族を中心に蛮族が戦っており、パリシー人はシテ島に住んだが、後年に征服したローマ人は小高い左岸に都市を作った。城郭都市の始まりである。

図 1　パリの市壁図ガリア・ローマ時代から近代

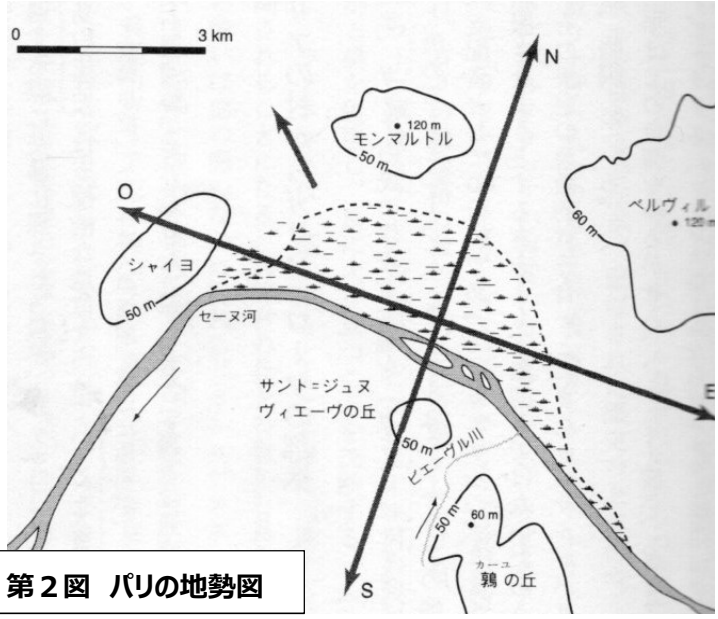


第 1 図、第 2 図とも出典は、パリの歴史（新版）白水社

2. **ガロ・ローマ時代のパリ** Gallo-Roman Lutetia

① 共和政ローマ期の最後の執政官で終身独裁官の**カエサル**（シーザー）の**ガリア戦記**で有名だが、ギリシア人の都市国家である**マッシリア**（現マルセーユ）が**ガリア**（現フランス）に住む**ガリア人**に襲撃されてローマに救援を求めた事から、ローマ軍がガリアに侵攻した。ガリア人は岩塩を求めてアルプスの北側の**ハルシュタット**を中心に繁栄し、東のアナトリア（現トルコ）から西はブリタニア（現イギリス）に住む文字を持たない民族で、沢山の部族に分かれていて、西のローマ人はラテン語系でガリア人と呼び、東ではギリシア語系で**ケルト人**と呼ばれている。BC27 年からローマは帝政時代になっても東はギリシア語、西はラテン語が普及しており、帝国を統一する軍事用語はラテン語だった。

② 右はパリの地勢図。セーヌ川は東から西に流れているが、周辺にはガリア系部族の**パリシー人**が住み、セーヌ川の中の**シテ島**にオッピドム（防塁）を造り、彼らの都ルコテイアを築いた事が、ガリア戦記に書かれている。ローマ軍は二車線の**ローマの道**を建設し、フランス各地に駐屯地を築いた。パリに進出した時にはシテ島のオッピドムは無くなっており、ローマ軍はセーヌ川水面より高い左岸（川の上流から下流に向かって左側の川岸）に、浴場・円形競技場などを備えた都市を建設し、ラテン語でルテテイア（Lutetia）と名付けた。この地域は現在でも**カルチェラタン**（英：ラテン・クオーター）と呼ばれている。



第２図　パリの地勢図

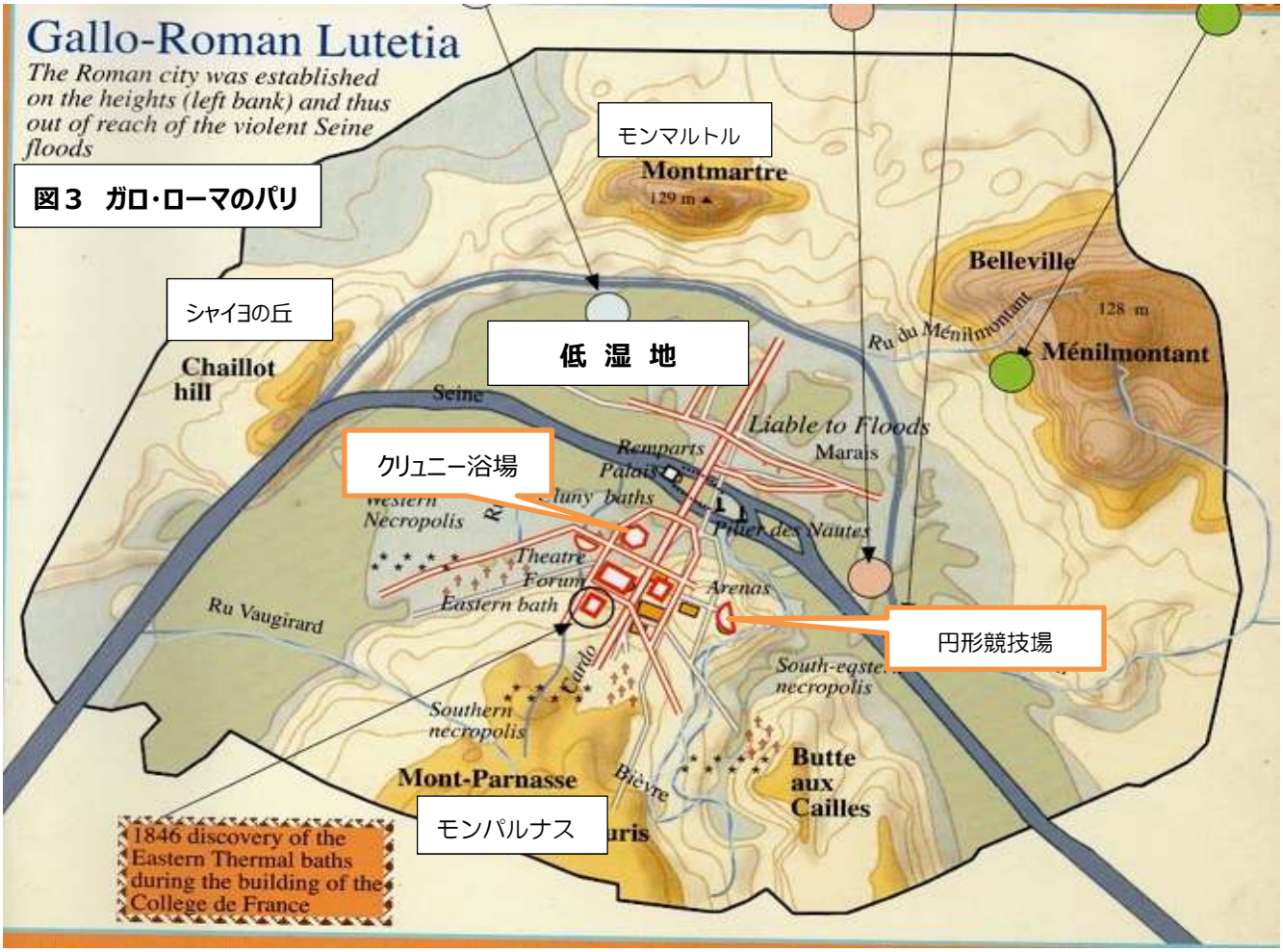


図３　ガロ・ローマのパリ

図 3,5,6 の出典：Paris 20centuries of History ,Maurice Griffe

③ シテ島のパリシー人が去り、オッピドムがなくなった後、ローマ人は左岸に市壁の無い都市を作ったが、3 世紀には、東方の**フン族**（匈奴ではない）に追われて移動してきたゲルマン人の部族の一派である**アラマン人**がローマ人の都市を襲撃し、多くの住民がシテ島に移動した。この時に左岸の都市の石材などがシテ島に移されて、島を取り巻く城壁の強化に当てられた。 同時期に右岸の高台にも都市建設が始まり、シテ島を中心にセーヌ川の両岸に住居が広がり、ルテテイアの名前が使われなくなり、パリシー人の町という表現からやがて**パリ**の名が最終的に用いられるようになった。

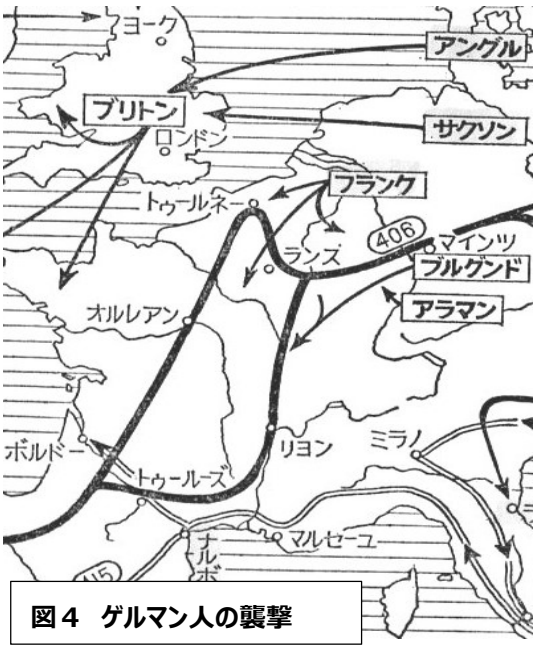


図４　ゲルマン人の襲撃

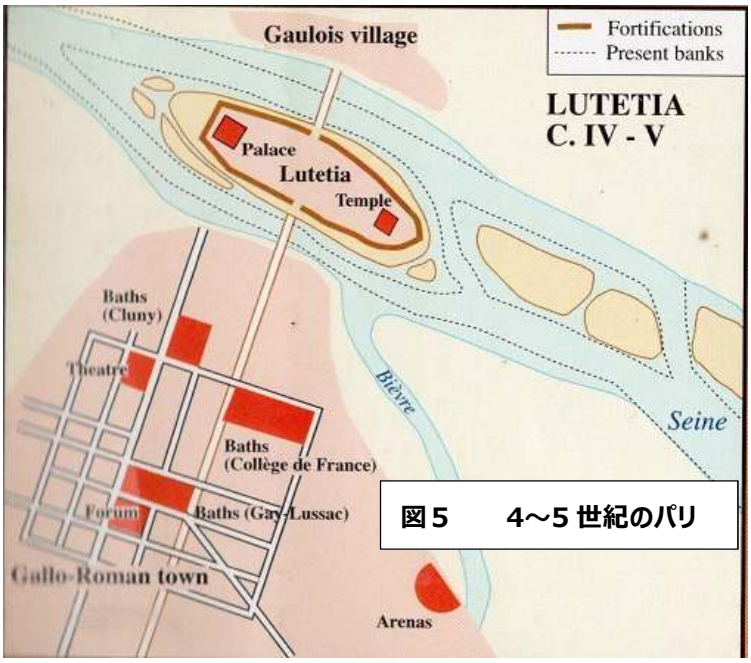
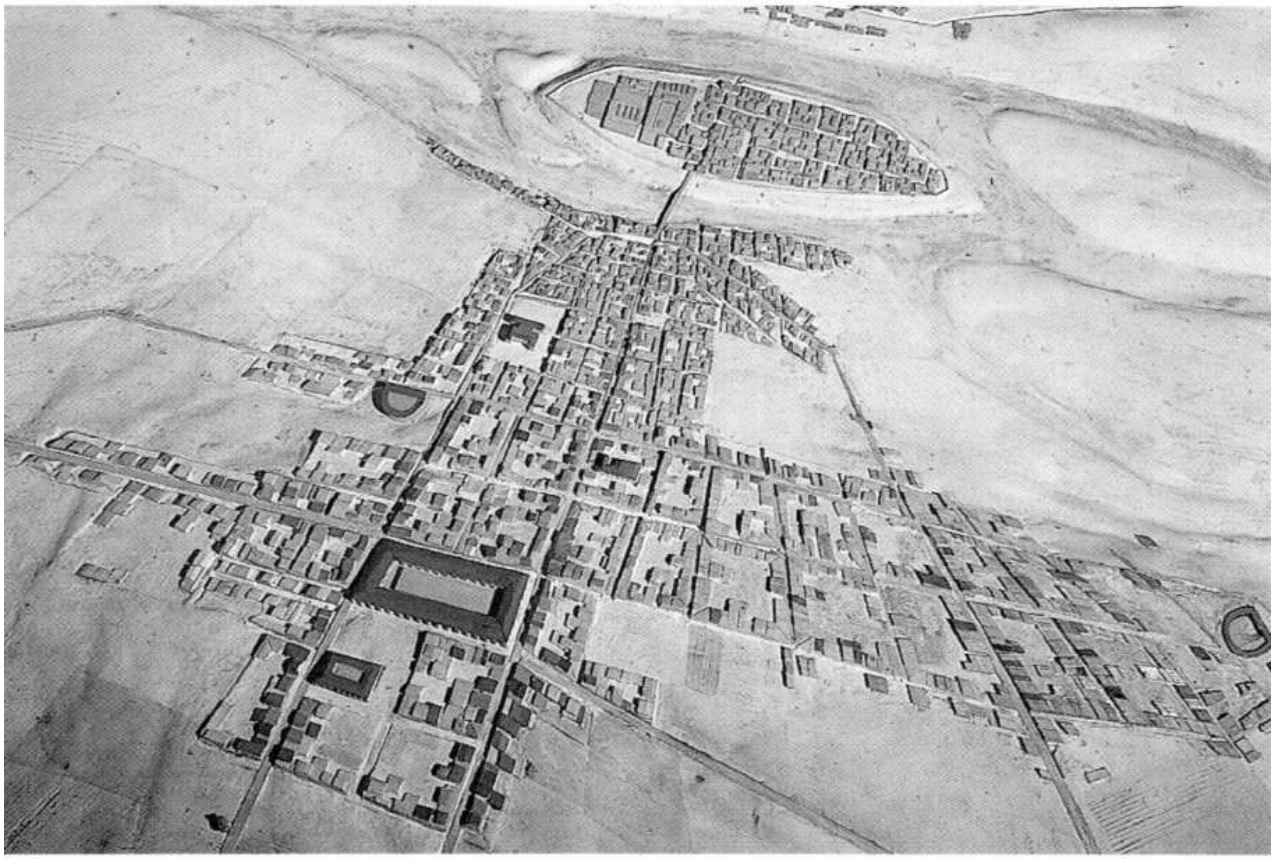


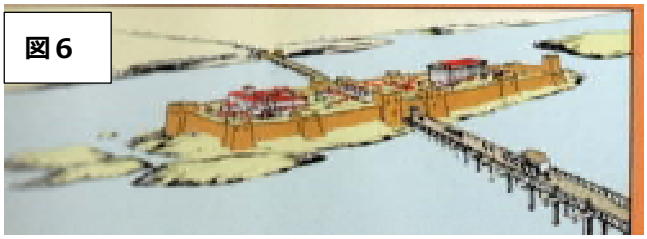
図５　　4～5 世紀のパリ

④　４世紀ごろのルテテイア　**図６**　　出典：次項⑤の**地下宝物庫** Crypte Archeologique 博物館のパンフレット



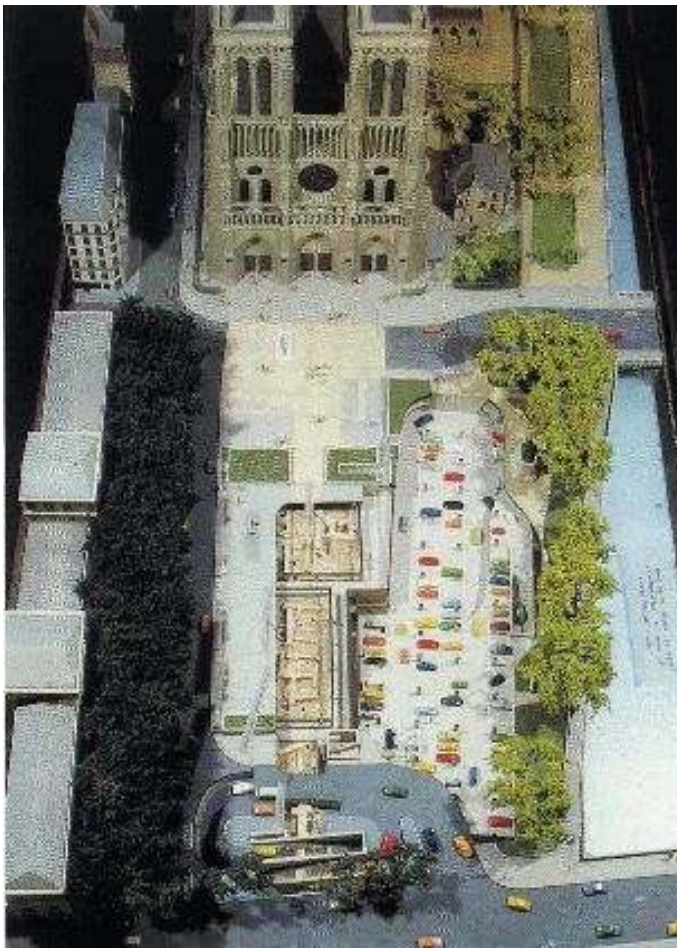
⑤ ４世紀には、 東方のアルザス方面でゲルマン人との戦いが激しくなり、パリはローマの軍団の後方支援基地の役割を果たした。この頃のローマ皇帝は「背教者」として知られるコンスタンチヌス大帝の甥のユリアヌスで、シテ島の宮殿で指揮を執り、**辻邦生**の名著（毎日芸術賞）「**背教者ユリアヌス**上中下 3 巻」（中公文庫）に詳しく描かれており、ビザンツ学者の大月康弘教授（現、一橋大学副学長）のご指導で勉強し、07 年と 08 年に個人で宮殿跡を訪問した。

パリ最初の城郭都市は、4 世紀のシテ島でノートルダム大聖堂前庭地下の発掘から城壁の一部が発掘されており、右図のような城壁だったと推定されている。宮殿の遺跡の一部が「**地下宝物庫** Crypte Archeologique」として保存公開されている。→⑦項を参照ください



⑥　現代のシテ島　写真の出典：Google

⑦　シテ島のノートルダム大聖堂前庭の地下の地下宝物庫 Crypte Archeologique 博物館の地上部



地下宝物庫博物館に展示されているジオラマの写真　　ノートルダム大聖堂の西ゲート前の広場　地下は駐車場と博物館

⑧ 地下宝物庫 Crypte Archeologique 博物館は 1980 年に公開された長さ 118m 幅 58m で、ルーブル美術館地下と並んで世界最大の地下博物館。3 世紀のローマ軍の進出から 19 世紀まで切れ目なく繁栄したシテ島の遺跡が重なっている。ここでは、左岸側のローマ時代の城壁とされている部分の写真を紹介する。
多くの石材・建材は③項で説明したようにローマ人が左岸に建設した城壁の無い都市がゲルマン人の一派のアラマン人に破壊された後でシテ島に移したもので、元は建材ではなくて石のモニュメント等が多く使用されている（そうである）。コンスタンチヌス大帝の死後、長男、次男、三男が皇帝を名乗り、その後皇帝になった（背教者）ユリアヌスは 357~358 年と 359~360 年の 2 回パリに滞在して東方・アルザスでのゲルマン人との戦いの指揮をした。その後、ペルシアの戦いに参加して戦死した。広い展示場だが筆者以外にはドイツ語を話す訪問者を 3 人見ただけであったが、彼らも**ユリアヌスの宮殿**を中心に見学していて、わずかな時間だったが良い思い出になった。

3. クリュニー浴場 Cluny Bath 図 3 を参照 （@ソルボンヌ大学北側）
ローマ人は駐屯地には浴場を作った。ヤマザキマリのローマ皇帝ハドリアヌスを主人公にした漫画テルマエロマエで有名である。浴場はラテン語でテルマエだが、イギリスに作った駐屯地には Bath と名付け、英語の風呂になった（諸説ある）。

4. **ローマの円形競技場** （第 3 図を参照）皇帝は市民に「パンとサーカス」を与える事に注力した。パンは市民に支給する穀物でサーカスは様々な見世物だったが、パリのこの時代はローマ帝国末期であり、どんな見世物が提供されたか不明。

次回は、ガリア人・ローマ人の後に侵攻してきたゲルマンの一派のフランク人中心の城郭都市パリの予定である。 以上